2024 第 21 回 JSCA クィーンズランドスイミングチャンピオンシップ遠征報告書

報告：団長　福島　孝志（四国ブロック）

遠征日程：2024年12月12日（木）～22日（日）　10泊11日

引率役員・コーチ　9 名

団　　長	福島　孝志	男	石原スポーツクラブ
副　団　長	松川　大悟	男	わかあゆ SC
ヘッドコーチ	広田　順平	男	スウィン大宮
サブヘッドコーチ	片平　和樹	男	枚方 SS
支援コーチ	三浦　正敏	男	JSS パルポート紀の川
支援コーチ	一田　幸男	男	1toSWIM
ドクター	米田　麻美	女	yoneda sogo press
シャペロン	聡子　フレンド	女	オーストラリア在住
コーディネーター	清水石　寛	男	K・コンシェルジュ

選手団　16 名

和歌山	榎本　光時	14 才・中 2	アドヴァンスカツラギ
大阪	安藤　　陽	16 才・高 1	枚方 SS
大阪	今道　龍之介	12 才・中 1	枚方 SS
山口	伊藤　冬児	14 才・中 3	防長 SC
埼玉	今井　虹心	12 才・中 1	スウィン大宮
三重	水谷　和瑚	12 才・中 1	津田 SS 桑名
愛知	丹所　潤瑠	12 才・中 1	1toSWIM
埼玉	井出　凜花	12 才・小 6	スウィン大宮
兵庫	片山　湊都	12 才・小 6	NSI 武庫之荘 SS
和歌山	山本　新太	12 才・中 1	JSS パルポート紀の川
大阪	池田　琉愛	12 才・小 6	サンケイ ST
京都	堀江　奏花	15 才・高 1	NSI 三国
東京	松永　帆南	12 才・小 6	JSS 立石
石川	髙村　星那	12 才・中 1	ナント SC
岐阜	玉置　侑衣	14 才・中 3	1toSWIM
大阪	飯坂　大翔	14 才・中 3	コナミ香里ケ丘

12月12日（木）

全国各地から、スタッフ8名・選手16名が無事に成田空港に集合、結団式としてスタッフからの挨拶、自己紹介、丁子事務局長からの連絡事項、コーディネーターからの諸注意を聞き、いよいよこの遠征がスタートとなる。全国大会・合宿等には慣れている選手ではあるが、皆緊張の様子。成田空港を定刻に出発する。搭乗後軽食（あんかけ焼きそば）を食べて、眠りにつく。

12月13日（金）

狭い機内、やや揺れもありなかなか寛ぐことは難しかったが、朝食にレモンケーキを頬張り、定刻にブリスベン空港に到着。入国手続きの際に、コーチ2名が別室に呼ばれるハプニングがあったが（塩素の匂いがしたのかも？と笑い話もあったが、手荷物の中の「汗拭きシート」の水分が反応したらしい・・・笑）、寝不足の目をこすりながら石坂ドライバー運転のマイクロバスに乗って、まずはローンパインコアラガーデンへ向かう。ここで、シャペロンの聡子さんと合流し、今回の遠征メンバーが全員出揃う。柵の無い動物園的な施設で、コアラ・カンガルー・エミュー・トカゲ？とチームメイトとも触れ合いながら、チームワークを高める。昼食は、ローンパインガーデンへ移動し、高台の景色の良いレストランで、ハンバーガーを頂く。肉々しく最高に美味しいハンバーガーで、皆ペロリと平らげる。午後は大会会場のブリスベンアクアティクスセンターへ前日練習に向け移動。J.O 等でアクアティクスセンターに慣れているメンバーなので、メインプールにはさほど驚いた様子は無かったが、サブプールの大きさ（スキーのジャンプ台がある）には皆驚いた様子。コーチより、諸注意（レーンは左側通行・プールの水はしょっぱい・ライフガードの権威有り等）を聞いた後、元気にW－up に向かう。Up 後、皆から「軽い」「浮く」といった言葉が出る。練習用水着であることや疲れを感じさせない頼もしい発言に明日からの戦いに期待が持てると感じた。夕食はホテル近くの大型ショッピングセンター内のイタリアンレストランで。トマトのブルスケッタ・一人前500gはあろうかというボロネーゼ・サラダ、男子はパスタを完食したものの、女子はその量に、男子もバルサミコ酢のドレッシングには苦戦。食文化の違いを感じることも勉強の一つ。夕食後はホテルにてミーティング。広田ヘッドコーチより明日のレースについての説明や、一田コーチからの経験に基づいたアドバイス、米田ドクターからは「食べる・寝る・笑う」がキーワードの心と身体のお話し（もっとゆっくり

聞きたかった）があり、1日目無事終了。

12月14日（土）

7：00朝食、男子は朝から白飯にパン、ソーセージ・ベーコンと朝からガッツリ、女子もパンにフルーツと、皆元気な様子。今日は午後からリレーのみの競技なので、朝食後少しゆっくりして、10：30にホテルを出発。午後の競技の時間を逆算して、さあ屋外サブプールでアップしようとしたところ、ストーム！！雷も鳴り、プールから上がらされるはめに。急遽、屋内ダイビングプール開放があり事なきを得た。昼食はチキン南蛮の弁当をデリバリー、やはり日本人は白飯が好きな様子。本日はリレー競技のみだが、「12歳以下のメドレーリレーはレッジを使わない」との謎の公式発表が・・・明日からの個人種目はどうなるかを大会本部に確認したら、「使用する」との返答。国際大会では想定外なことが起きると痛感。男子・女子の12歳以下の4×50mFR・MRの4レースの結果は、男子MR、女子FR・MRの3種目は見事優勝。ただ、表彰台で、応援席に手を振ってくれなかったことが少々不満だった（笑）。男子FRは、スターターの合図の間の長さにタイミングが合わず、残念ながら失格となる。日本ならスターターが交代しても大きくタイミングが変わることはないが、早速海外の洗礼を受けることに。こうした経験を皆が明日から生かして欲しいと願う。夕食は250gのステーキ・ガーリックトースト・サラダに付け合わせの量では無いポテト、それでも男子はペロリと完食、女子からのおすそ分けも食べて頼もしい限り。ホテルに帰って、明日からの個人競技についての説明を受け、本日無事終了。

12月15日（日）

6：00～朝食、女子2名寝坊。皆に少し疲れが見える。その中でも年齢の高い男子4名は、朝からしっかり食べている。これをチームで見習うようになって欲しい。今日は、15名の選手が17種目に挑戦、決勝進出10名のうち外国人枠が2名なので、チーム内でも競い合うことになる。この大会では、朝7：00に開場し、9：00～13：00頃までを予選、予選終了後は荷物等を全て撤収して一度退館。16：00から再入場が開始し、18：00～決勝競技というのが通常スケジュール。予選終了時間に合わせて2便に分けて一度ホテルに戻りしばしの休息、18時からの決勝に備える。本日の結果は、予選17種目中、12種目で決勝進出、1位4種目・2位

3種目・3位2種目となる。中でも、榎本選手の100Fly の 54 秒 94 は自己ベストとともに、14歳の「クイーンズランドオールカマーズレコード」（クイーンズランド新記録）樹立の素晴らしいタイムだった。本日からの夕食は、祭りキッチンという日本食レストラン。肉の続いた身体に魚料理を美味しく頂く。例年なら、日を追うごとに選手同士が仲良くなっていくのだが、なぜか今夜から急に女子チームはハイテンション！！この勢いを明日からのレースに活かしてほしい。

12月16日（月）

6：00朝食、昨日よりも白飯を食べる量が多くなってきた、いいぞ。1日の流れはここから最終日まで同様。予選後、昼食は色とりどりのそぼろ丼を食べ、決勝に備える。本日は予選15種目中8種目で決勝進出。決勝スタート前のパフォーマンス、表彰台での立ち振る舞いも雰囲気に慣れてきた。スタート前は自身で気持ちを高める、終わったら仲間と称えあう、素晴らしい光景。1位2位ともに4種目の結果であった。夕食は天津飯を摂って早めに休む。

12月17日（火）

本日は、朝食の後全員揃って出発。遠征も中盤を迎え、疲れの出る頃だがドクター米田のサポートのおかげもあり皆元気。米田ドクター曰く「私、失敗しないので」笑。本日の前半は50m自由形のレースが続く。当然Wーupの際にはダッシュをする選手が多いが、そうかといってダッシュレーンが増える訳でもなく、メイン・サブプールともに2レーンずつしかない。予選終了後、ホテルに戻って唐揚げと豚生姜焼き弁当を食べて、休息。こちらについてからずっと曇り空にわか雨が続いたが、午後から晴天に。本日は予選19種目のうち7種目で決勝進出、1位1種目2位3種目3位2種目の結果であった。競技終了後、パラ日本チームと記念撮影、互いの健闘を誓った。夕食は、野菜たっぷりのチキンカレーでおかわり続出。昨日樹立した、榎本選手の「クイーンズランドオールカマーズレコード」の表彰式を行った。

12月18日（水）

6：00朝食、寝坊組が出てくる。今朝はどんよりとした曇り空、天気同様選手にも疲れが見える。雷のために屋外アッププールが使用禁止になったり、バタバタしている。本日の前半は背泳ぎ。台・レッジが日本仕様と異なるが、戸惑いは無い様子。昼食は、サイコロステーキ弁当を食べ、決勝に備える。決勝前はレースの時間を逆算してプールへ向かうのだが、メインプールでのupよりもホテルでの休息を優先する選手が見られる。それを自身で判断できるのも素晴らしい。本日は、予選19種目中12種目で決勝進出、1位7種目2位3種目3位1種目の結果であった。疲れの見える中でも、自己ベスト更新、ナショナル標準突破、クイーンズランドオールカマーズレコードに 0.1 秒に迫るなど、頑張りをみせてくれる。夕食は、ジャージャー麺（うどん）3杯おかわりする女子選手も。デザートには、聡子さんからの差し入れのチーズケーキ。食事後のミーティングでは、ホテル等公共の場での行動、補食の選び方について注意を受ける。明日からに活かして欲しい。

12月19日（木）

6：00朝食、こちらに来て初めての爽やかな晴天の朝、気温20度・湿度60％、とても過ごしやすい。体重計を購入し今朝から測定、各自の体調管理に役立てる。昨日のミーティングを受け、少し緊張感あり。他国の選手とも積極的に交流している姿が見られる。バックの選手が15mオーバーで失格に。スタートのタイミングが合わず（ロングホイッスルからピストル合図までが長い）に深く潜りすぎたのが原因だが、これもまた経験。昼食は、唐揚げ弁当を食べ決勝に備える。本日は予選19種目中13種目決勝進出、1位8種目2位2種目の結果であった。各自、レベルの高いレースを見せてくれた。これで、参加選手全員の決勝レース進出が叶う。夕食はオムハヤシ、選手の好みそうなメニューを考えてくれて、祭キッチンさんに感謝。選手同士はお互いのユニフォームにサインをし合うなど、皆仲良し。

12月20日（金）

6：00。大会最終日の朝食。今朝も快晴、気温19度・湿度80％爽やかで心地よい。レース最終日ということで、多少疲れも見えるが、リラックスしている様子、頑張ってもらいましょう。昼食はハンバーグ弁当、それにしてもこちらの肉は旨い。本日は予選20種目中16種目決勝進出、1位5種目2位2種目3位4種目の結果であった。決勝レースの役員は「クリスマスバージョンの衣装」折返役員は、軽くダンスをしながら観察をしている、この雰囲気は日本では感じられない。無事全レース終了の後は、一緒に戦った仲間たち・チームメイトと写真撮影で別れを惜しむ。結びは、「プールに向かって一礼」日本チーム恰好いいぞ。夕食は、祭りキッチンで最後の晩餐。楽しく盛り上がる。

12月21日（土）

アッパーマウントグラバックでの最後の朝。大会での頑張りを祝福してくれているかのように、この遠征で最高の天気。さあ、今日は全力で遊ぼう。まずは、ゴールドコーストビーチへ、南北に40km以上の砂浜が続き、世界一といわれるライフセーバーのいるビーチ。日本なら、台風並みの大波だが、彼らのおかげで安全に楽しめる。ボディサーフィンに挑戦、流石トップスイマー達、水と戯れるのはお手の物。疲れたら、砂で「前衛芸術？」を作ったと思ったら、男女に分かれて砂山作りの大きさを競う。子供か！昼食は、ビーチを見ながら最高のロケーションの中、チキンを頂く。午後は、シーパラダイスに移動、遊園地と水族館が合わさったような施設で、グループに分かれてジェットコースター等を楽しむ。最終宿のゴールドコーストのホテルにチェックイン後、夕食までの間は自由行動。それぞれお土産の買い物を大人の手を借りずに、支払いを済ませている。オーストラリア最後の夕食は締めのステーキ、食事後はメダル授与式。各自のメダルには、日時・名前・タイムが刻まれている、いい記念になるだろう。一人一人がこの遠征についての感想を発表、今後の活躍を誓う。残念ながらメダルが取れなかった選手もいたがスタッフが別の物を用意。その選手の言葉に一同が笑いと感動に包まれた。本当にいいチーム。オーストラリア最後の夜は高層階からの夜景を見ながら眠りにつく。

12月22日（月）

移動日、空港で運転手の石坂さん、シャペロンのさとこさんと別れを惜しむ。無事、出国審査はパスしたが、飛行機の遅延で足止めをくらう。予定より3時間遅れで出発、昼のフライトではあるが疲れもあり、寝ている選手が多い。21時過ぎに無事成田着、遅いので手短に解団式を行う。スタッフから選手へ、今後の激励やお礼の言葉がある。その後、関東組4名は帰路につき、その他のメンバーは成田に後泊となる。

12月23日（月）

後泊メンバーも別れを惜しみながら、J.O 等での再会を誓ってそれぞれの地へ向かう。

総括

小6～高1までの男女8名ずつの計16名の選手団。得意種目は被ったが、年齢的にも性格的にもバランスの取れたいいチームだった。口数は少ないが、背中で引っ張る総キャプテン、明るさと食欲の男子キャプテン、しっかり姉さん女子キャプテンを中心に、異国の地での環境に戸惑いながらも競技や応援に力を発揮してくれた。他国の選手や JAPAN パラチームとも積極的に触れ合うことができ、さまざまな経験が積めたかと思う。スタッフにおいても、的確なアドバイスのヘッドコーチ、クールなサブヘッドコーチ、経験豊富な支援コーチ、癒しの支援コーチとこれまた年齢的にも、キャラ的にもバランスの取れたコーチ陣だったように思う。また、選手の体調のみでなく、細かいところまで気を配っていただいたドクター、水泳知識の豊富なコーディネーター、団長・副団長、現地シャペロン・運転者さんも含め、素晴らしいチームワークで選手のサポートができたかと思う。協会本部としてはコストも手間もかかる大きな事業ではあるが、未来ある選手の為に是非とも続けて頂きたいと思うとともに、参加選手たちには、今回の経験を活かして「誰からも応援される選手」になって欲しいと切に願う。結びにこの遠征にあたり、ご協賛・ご提供頂きました江崎グリコ（株）様、ミズノ（株）様、（株）サンワ様、（株）ヒカリスポーツ様に感謝とお礼を申し上げます。